

◆発行◆

いわき市教育委員会事務局
生涯学習課
いわき市少年補導員
連絡協議会

かけはし

◆連絡先◆

平少年センター TEL 22-5431
小名浜少年センター TEL 54-1890
勿来少年センター TEL 63-3467
常磐少年センター TEL 43-2305
内郷少年センター TEL 26-2974
四倉少年センター TEL 32-2920

第10回 いわき市青少年育成大会

8月27日に文化センター大ホールにおいて「～生かそう、きずな。未来のために!～」をテーマに、第10回いわき市青少年育成大会が開催され、少年補導員や学校教職員、青少年育成団体ほか各関係機関から、310人が参加しました。

オープニングセレモニーでは、みや誠承太鼓による、若さあふれる力強い演奏が披露され、大会を活気づけました。

意見発表では、小学生、中学生、高校生の代表5人が、学校での活動や出来事の中で、いじめをなくすためにできることや、地域とのつながりの大切さなど、日頃感じている思いを力強く発表し、参加者は熱心に聞き入っていました。

記念講演は、元フリーアナウンサーの道志真弓さんが、「『生きている』幸せを感じて～奇跡の生命と共に生きた8年8ヶ月～」と題

し、世界で数十例しかない染色体の病気のため、8歳で他界した愛娘弓華さんとの生活を自身の貴重な体験と共に話し、「食べたり、歩いたり、話ができることは、当たり前のことではなく、素晴らしいこと。だから一日一日を一生懸命に生きてほしい」など、生命の尊さ、生きていることの素晴らしさを参加者に伝えました。

【意見発表者】

- ・大平心音さん（郷ヶ丘小6年）
「勇気を出そう」
- ・根本真佑さん（桶売中3年）
「地域の輪-チーム桶売-」
- ・三戸叶美さん（入遠野中3年）
「グローブに願いを込めて」
- ・白鳥咲太さん（磐城桜が丘高2年）
「スマートフォンの使用状況と課題」
- ・栗石理矩さん（湯本高2年）
「流されない勇気」



「みや誠承太鼓」によるステージ

子どもと向き合う ことの大切さ…

いわき市少年補導員連絡協議会
会長 松崎 総一郎

初めに、私が少年補導員や少年警察ボランティアという役目を受けて随分と永い年月が経つものと思っていますが、社会環境にもかなりの変化が生じていると認識しています。自分たちがPTAやスポーツ少年団など、ボランティア

活動に携わっていた時代背景を鑑みると尚更強く感じます。

私たち少年補導員は、学校（小中・高）の先生方や一般有志合わせて約250名が、基本的な役割である青少年の健全育成を図ることを目的に、心構えとして常に相手を思いやる気持ちを忘れず活動しています。今、市制50年を過ぎ、私たちの組織（制度）も53年目を迎えました。政治・経済のみならず、教育面に於いても難しいネット社会といわれている現況を踏まえ、私たちも時代のニーズ

に応じて取り組み、自己研鑽を積み、様々な施策を行っている行政と共に、組織間の協力、相互の情報共有化に努め、活動していきたいと思っています。

上記のいわき市青少年育成大会の記念講演では、講師である道志先生のお話に大変感動いたしました。改めて家族や家庭の大切さ、自分たち大人や親の立つ位置、子どもと向き合うことがどれ程大切なものなのかを感じた次第です。今後とも宜しくお願い致します。

『そのままに しないさせない いじめの芽』

平成28年度いじめ根絶10か条標語の部 最優秀賞 林 馨子

補導員になって

勿来方部

補導員 赤津 光



私が補導員になって10数年経ちました。ある時先輩から、補導員をやってくれないかと誘われ、補導員の補の字も知らずに引き受け現在に至っています。私が補導員を引き受けた時は、歩く補導でした。町中、公園等で子どもたちへ声かけの時など初めは大変勇気が要った事がなつかしく思い出されます。ある年度より、少年アドバイザーの運転により青ランプを光らせて巡回する「見える補導、見せる補導」が中心になり、子どもたちに直接声をかける機会が減っていますが、植田駅前「ふれあいひろば」担当の時など子どもたちに気軽に一声をかけ、未来の宝の子どもたちを今後も積極的に見守り続けていきたいと思っています。

みんなで子どもたちを看よう

平東方部

補導員 齊藤 光司

「見る」という字は、目の上に手をあてて、よく「みる」形で、見守ったり、世話をする意味の「みる」です。いわき市では、7つの方部に分かれて、月70回程の街頭補導をしています。広いいわき市、それも2時間程度の街頭補導では、全然足りません。小学生を例にとると、集団登校集合場所での父兄の見守り、登校中の上級生による下級生の見守り、小学校までの各横断歩道での交通安全母の会の見守り、学校前の学童擁護員（緑のおばさん）、校長先生の見守り等が行われています。また、各地区では地区の住民の方々、PTAや消防団、防犯協会、

Report

交通安全協会等各種団体が、子どもたちを見守っています。このような複数の目が、ふるいに例えれば、目が粗ければ通り過ぎてしまうものも、細かくして子どもたちを守ることに繋がると思います。

親の背中

内郷方部

補導員 市川 智子

補導に携わって、日々子どもたちの変化には驚かされています。SNS、跡を絶たないいじめ、悲惨な自殺。子育ての中で、今までの考えでは対応できない事柄が余りにも多く、親自身が揺らいでいる様な気がしてなりません。今の私たち世代は、戦前教育を受けて敗戦、今までの価値観を全て覆され、戦前教育はすべて悪で、戦後教育は全て素晴らしいという世代に育てられました。その結果の自由、個人主義、放任主義。でもその割には不思議と毅然としていた親の背中。今の私たち世代が子どもたちに見せてあげられる背中、私たちの親世代のその背中で異なっているのでしょうか。背中は異なっても変わらない一本の芯。それは子どもへの愛情。私たち親は、情報を入れながら取捨選択し、柔軟な対応が求められていると思います。それに毅然とした背中也。

地域の安全と安心

常警方部

補導員 渡辺 義則

私が補導員になって2年数か月が経ちました。補導員になるきっかけは、小学校のPTAから補導員体験のお話を頂いたことです。体験に参加してみると、子どもたちを遠くから見守っている補導員の大きな力があって、子どもたちと地域の安全、安心があることを実感しました。既に活動している方の中には、仕事やボランティア活動、ご近所でお世話になっている方がおりましたので、補導員を快く引き受けることができました。

私の補導活動は仕事が終わってからになりますので、夜間の巡回が多いです。中高生の部活帰りの時

『その涙 貴方の勇気で 変えられる』

平成28年度いじめ根絶10か条標語の部 優秀賞 大平 成美

街頭補導活動リポート

間帯になります。湯本駅周辺を徒歩での巡回や、青ランプを回して学校周辺を巡回中に、帰宅途中の学生に会釈をされると嬉しいです。これからも補導活動を通して地域の安全と安心、防犯や抑止力に青ランプが役に立つことを願っています。

補導活動を振り返って

四倉・久之浜方部

補導員 伊藤 浩一



補導員となり15年の月日が経ちました。当時は、喫煙する中高生や、夜遅くまで町内で遊ぶ男女の姿が見られましたが、最近は少子化の影響か夜間パトロール中に中高生を見掛ける事が無くなりました。しかし非行や犯罪が減っている訳ではありません。新聞やテレビのニュース等でも、いじめによる自殺や集団暴行による殺人等、今まで考えられない悪質な事件が起きてます。スマートフォン、インターネット、ゲーム等の普及で便利な社会となり人との付き合い方も変化している今だからこそ、人と人のふれあい方を大切にできる環境をつくれる様、これからも子どもたちを非行や悪から守る活動に協力していきたいと思っています。

子ども目線で声かけの大切さ！

小名浜方部

補導員 阿部 年次

私の家は公園の側にあるので、公園内で楽しく遊

んでいる子どもたちを見るのを楽しみにしています。たまに喧嘩や夕方遅くまでいる子を見かけます。注意すると喧嘩をやめるのですが、私が帰宅すると再び喧嘩を始めます。今までは上から目線で「喧嘩をやめろ」と怒鳴っていたので、子どもたちには効果がなかったと補導員になって気づかされました。今は、子ども目線で喧嘩の原因を聞きアドバイスをして仲直りさせています。遅くまで遊んでいる子には、「お母さん心配するよ」と声をかけています。今では子どもの方から「今何時ですか」と聞いてくるようになりました。最近は喧嘩をする子はいますが、遅くまで遊んでいる子はいなくなりました。子ども目線で声かけをすると、子どもたちも私を信頼し何でも話してくれるようになり、目線の大切さがわかりました。これからも補導員の誇りを持って頑張ります。

平西方部恒例の早朝補導に参加して！

平西方部

補導員 佐川 真澄

9月4日(日)、私は初めて早朝補導に参加しました。平西方部恒例行事なのですが、サラリーマンを理由に早朝という事もあり断っていたのですが今回参加してみました。小川駅～赤井駅と廻り、改めて今の子どもたちの現状を垣間見ることができました。自分たちの世代だと友人とワイワイおしゃべりしながら登校していましたが、現代は親の乗用車で送迎され列車の発車寸前に駆け込む子どもが多い事を認識しました。挨拶どころか間に合うのか見守るのが精一杯でした。もっと余裕を持って！早く起きて！と声を掛けたくなる状況です。今日も一日頑張って！大人たちは応援してますよ！私たちが見守ってますよ！さあ、ファイト！



『わたしから いっぱいひろげる おもいやり』

平成28年度いじめ根絶10か条標語の部 優秀賞 阿部 夏帆

家庭のちかい

- 1つ 親も子も、早寝、早起きして規則正しい生活につとめます。
- 2つ 親も子も、進んであいさつするようにつとめます。
- 3つ 親も子も、何でも話しあえるようにつとめます。
- 4つ 親も子も、家事を分担し、役割を果たすようにつとめます。
- 5つ 親も子も、隣近所と仲良くし、社会参加につとめます。

(毎月第3日曜日は家庭の日です)

フレッシュな新任補導員から一言

「感謝をこめて」

平東 方部 補導員 柳田 明美

電話の中から懐かしい声が紡ぎ出したのは、耳慣れない言葉でした。少年補導員!? 私が? できるの? 街中パトロールの経験も、子どもたちが中学生の頃だけです、とてもおこがましくて即答はできませんでした。でも下の子が20歳を迎えた年にお話を頂き、これも何かのご縁! と。毎回諸先輩方から学ぶことが多く、勉強させて頂いております。お声かけて頂き、嬉しく思っております。ありがとうございます。頑張ります。

微力ながらも・・・

内郷 方部 補導員 佐藤 珠美

今年度より補導員として活動させていただいております。5月から毎月1回「見せる補導」に同行し、下校途中の子どもたちの笑顔に触れ、改めて平穏無事の有難さを感じています。それと共に、地域と関わる事の必要性、それを続けていく事の重要性を認識しているところです。一人の主婦としては微力ではありますが、皆さんと共に活動していく中で、少しでもお役に立てれば嬉しく思います。どうぞよろしくお願い致します。

子どもたちは今…

少年アドバイザー 松崎 佳宏

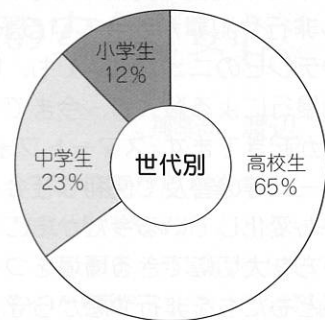
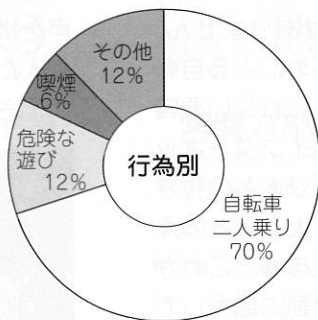
「今日も子どもたちの姿見ないねえ」本年4月にアドバイザーになり、補導員の方々と各方部を巡回しながら繰り返された会話です。夏休みになれば多くの子どもたちの姿を見られるかと期待して

いましたが、それでも公園などで遊んでいる姿を見かけるのは稀でした。子どもたちは今、学校以外でどんな生活をしているのでしょうか。一人遊びやネット、SNS上での希薄な人間関係の中での生

活が多くなっているようです。人と触れ合う機会が減り、コミュニケーション能力が磨かれないうためのトラブルが増加し、会社や地域での円満な関係を築けない人も増えているとのこと。人との関わりをどう醸成していけばいいのか…考えさせられます。

街頭補導の状況

平成28年度の街頭補導における内訳は、右のグラフのとおりです。補導人数は17人で、平成27年度と比較して減少した数字となっております。行為別では、自転車二人乗りが12人で最も多く、路上でのスケートボード等の危険な遊びが2人、喫煙が1人となっております。



編集後記

広報部長 鈴木 幸子
いわき市少年補導員を知っていますか。

学校の先生、少年アドバイザー、地域のおじさんおばさんで、夏の暑い日、冬の寒い日もほぼ毎日補導ベストを着て、いわき市内を巡回車や徒歩でパトロールをしている団体です。

少しでもこの「かけはし」を読んで私たち補導員のことを知っていただけることを願っています。そして私たちを見かけたら気軽に声をかけてくれたら嬉しいです。

『受け入れよう 仲間の個性 お互いに』

平成28年度いじめ根絶10か条標語の部 最優秀賞 鈴木 佳恵